

第 32 回（生活支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 27 年 10 月 21 日（水）13：30～15：00

2. 開催場所：社会福祉会館 3 階

3. 参加者（所属のみ）

南筑後保健福祉環境事務所、八女市地域包括、夢工房、陽だまりの里、八女作業所、ゆうゆう、蓮の実園、年輪の園、若楠園、ふるさと、ミライプラス、おおぞら、サングリーン、八女市社会福祉協議会、城山学園、広川町、リーベル

4. 実施内容

事例検討会・・・在宅生活者が 65 歳を迎え、障害福祉から介護保険に移行に際し、サービス量の減少や自己負担の発生など課題が噴出した。

○事例概要

事例提供者が、対象者の介護保険移行前の情報を説明し、グループごとに介護保険移行後の生活や支援の方法を検討した。参加者は日頃介護保険に触れる機会がないため、各グループに介護保険に明るい地域包括のケアマネさんを配置し、話し合いをリードしていただいた。

○各グループの発表内容

- ・介護保険前の情報をみながら、障害福祉の方が概して手厚く、介護保険の要介 2 の方ならば、こんなにサービスは必要ないだろうとのケアマネさんの見解。
- ・ご本人に寄り添いながら、「今までの生活を続けたい」という主訴をもっと具体的に引き出し深めていく作業が必要である。
- ・従来のサービスをただパズルのようにただ当てはめるのではなく、介護保険への移行をきっかけに改めてアセスメントを行う必要がある。
- ・必要なサービスと不必要なサービスを選別し、代替サービスの有無、介護保険ならではのサービス（たとえば小規模多機能など）も含めて検討する。
- ・緊急的な医療の体制を整える必要がある。また医療面で見守りが常時必要であることを考慮すれば、在宅以外の選択肢も用意する必要があったのでは。
- ・食事制限等を考慮すれば、ヘルパー利用にこだわらず配食サービスの導入の方がよいのではとの意見。
- ・介護保険導入により自己負担が重く、生活に支障が出るようであれば、生活保護の検討の余地もあるのではという意見、一方でケアマネさんからは高齢者で障害 1 級くらいの年金で生活されている方はたくさんいるという厳しい意見もあった。
- ・家族や親せきのいない対象者に対して、身元引受人になっている元会社上司や地域の民生委員の関わりなども問題に上がった。
- ・また事例を通じて、介護保険の現状を知ることができたという意見が多数あり、介護保険に切り替わり自己負担が発生することや、今まで慣れ親しんだデイサービスなど事業所とのつながりを切らねばならないことなどの問題を認識することができた。